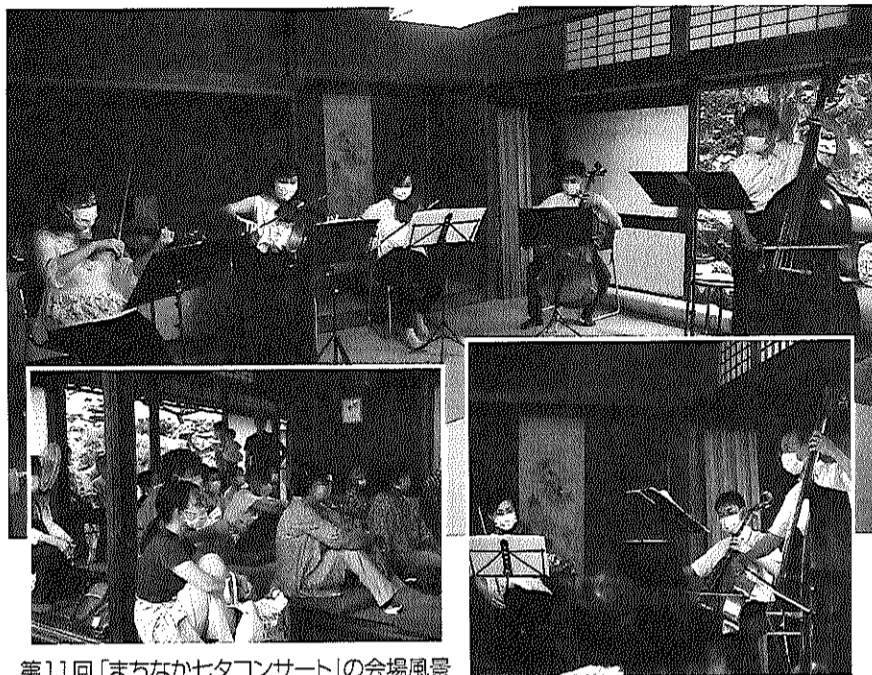


井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・令和3年11月15日・第27号通信
 責任者・小林 孝夫 (井の口まちづくり会会長)
 〒500-8018 岐阜市大仏町8 ☎058-264-2760
 事務局長・片岡 学史 kataokabaru@cocoa.plala.or.jp
 通信作成・馬場わかよ bwakayo@sf.commu.jp

第5波の前に、七夕コンサートは大好評



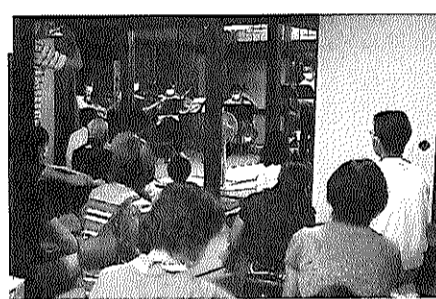
第11回「まちなか七夕コンサート」の会場風景

演奏者代表・川村陽一朗さんからひと言

コンサート当日は岐阜らしい?蒸し暑い夜でしたが、参道の灯りの演出や三密を避ける会場設営など、井の口まちづくり会の皆さんのコロナに負けない心のこもった企画によって思い出に残る七夕コンサートになりました。今回は日ごろ活動している「岐阜弦楽合奏団(GGG)」の有志5人で、七夕にちなんだ星の曲、歌謡曲やアニメのテーマソングなど、皆さんが気楽に聴いていただける曲を演奏しましたがお楽しみいただけましたでしょうか。金華で生まれ育った私は、自治会はもとよりPTAやコミスクなどの活動に長年関わらせていただき、また岐阜祭りでは安宅車のお囃子隊として参加もし、まさに「密」に過ごしておりますが、今回のイベントはさらに金華との「密」度を深められたものでした。参加したメンバーも「地域の皆さんとの触れ合いを感じた楽しい時間だった!」と大変喜んでおりました。ありがとうございました。
 岐阜弦楽合奏団 第9回演奏会(令和4年5月29日(日)14時~)をサラムンカホールで開催します。ぜひお越しください。

2年にわたるコロナ禍によって、中止あるいは縮小を余儀なくされてきた各種イベント。役員会ですら開催できない焦燥感漂うまちづくり会活動でした。しかし、多くの役員は常に活動の機会をうかがっておりました。そんな5月の終わり、コロナ第4波が収束傾向を示し、オリンピック開催モードに拍車がかかったその時に「歌のない七夕コンサート」を予定していたことは奇遇かもしれません。

7月10日(土)、コンサート会場は例年通り木挽町の般若寺。演者は「岐阜弦楽合奏団」主宰、白木町在住の川村陽一朗さんが「GGG」として、このコンサートのために有志5人によるクインテット(弦楽五重奏)を結成しました。夏の夕暮れから始まった演奏会は、これまでのうっぶんを晴らすかのようにとっても楽しい時間となりました。演奏曲もクラシックからアニメソングまで幅広く、寺院を開放したコンサート



般若寺の門前に笹の七夕飾りを用意して開場

の醍醐味を十分に堪能することができました。来場者は、高齢の方から子供を連れた若い世代まで70人ほどの参加でした。金華地区以外の方も多くお越しいただき「ポスターを見て来ました。とても

最後に、検温、消毒、換気、マスク着用などのコロナ対策に協力いただいた皆さま、また、演奏いただいた「GGG」の皆さまの多大なご理解とご協力によって開催できましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。(小林孝夫)

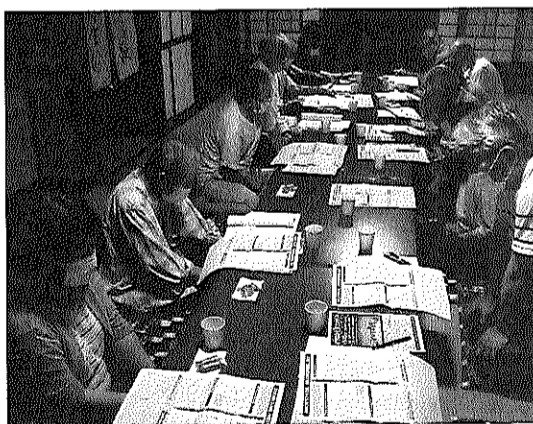
「まちなかアート部会」素敵でした」と家族連れのご婦人や「楽しかった」と嬉しそうな子供の声が終演の会場を包み、開催できて本当に良かったと感じました。本物の音楽は会場全体をその臨場感から一つにさせます。今後とも「七夕コンサート」を続け、皆さまと共に楽しい時間を創り続けたいと思えた時間でした。

まちなか七夕コンサート 「歌のないコンサート」音楽は楽しい

令和3年
7/10
(土)

自治会長さまからいただいたご意見(抜粋)

- 人集めに、岐阜出身の有名人を呼ぶのはどうか
- 会費以外に、地元企業の協賛金や連合会・校区の協議会からもっと助成金が受け取れないだろうか
- 協議会からの3万円の補助金は、全体が18万円であるため妥当な金額であるとお答え有り
- 連合会では、地区ごとに防災隊を立ち上げる構想があるが、井の口でも安全安心のまちづくりを推進して、環境美化の草取りなどもしてはどうか
- 以前に比べ、戦国の大道の交通量が増えている
- 文化的建造物顕彰制度の改正部分を知りたい
- 40代の頃に仕事で、道三公を調査した経緯あり
- 美濃市のJC時代、灯りアートなどに関わった経験があり、まち並みを活用したイベントはいいと思う
- 電線の地中化を進めてほしい
- ススキを飾る箇所を、もっと増やしてはどうか
- イベントの時間を参加しやすい時間帯に要考慮を
- 地域のためのまちづくり会活動に感謝している



●ご出席いただいた町内会名
 大宮町1、山口町、下茶屋町、今町1、今町2、松山町、松ヶ枝町北、松ヶ枝町南、今町3、今町4、大仏町(11人の自治会長さま)

地元の皆さまに、まちづくり会の活動に対する理解を深めていただき、ご協力をお願いするた

「(且)、正法寺庫裡にて開催しました。昨年

役員から、コロナ禍の中でのまちづくり会活動

出席した自治会長さんからは「会議に出席して初めて、こんなに多くの活動をしていることを知った」「地元企業の協賛金や金華の協議会からの助成金ももっともらえないか」「イベント中心ではなく、安心安全のまちづくりへシフトしてはどうか」など、さまざまなお意見を頂戴しました。貴重なご提言として、会の今後の運営に役立てさせていただきます。(片岡学史)

令和3年度・井の口地区 自治会長会議に1町内会 「広報通信作成部会」

(広報通信作成部会)

お米は岐阜県産のはつしもを毎日自家精米するこだわりで、客室には、ご主人手づくりの囲炉裏が設けてあります。

「やはり、予約をしていただくほうがお待ちせないので」とご主人。隣で奥さまが「手づくり和菓子やお抹茶セットは、いつでもお声を掛けてください」と明るく添えられました。(馬場わかよ)

予約なしでもランチは頂けますが、

コロナ禍の緊急事態宣言が繰り返される中で、オープンしたから、当初はお持ち帰りの特選鰻弁当をメインにされていましたが、お邪魔した10月中旬は、ランチ時間に市内からや観光客が店内で食事をされていました。

ご主人は、京都の一流料亭で8年修行し、岐阜の老舗料亭で板長を務めた料理人です。地元の食材と旬の食材にこだわって創られる「月待ちランチ」は税込み2千800円。夜席も同料金で「秋の味覚御膳」が頂けます。ステーキ重セット、特選鰻重(並み)セットは、だし巻き玉子・椀物付き3千円です。

「秋の味覚御膳」が頂けます。ステーキ重セット、特選鰻重(並み)セットは、だし巻き玉子・椀物付き3千円です。

今年5月、東材木町に新しい御食事処がオープンしました。名称は「月待ち茶屋」。建物は文化庁の「登録有形文化財」指定で、趣のある佇まいです。この建物はご主人が18年前に、いずればは自分のお店をここで開きたいと購入。庭の奥に建つ蔵も福井からそのとき移築し、4年程前、2つ一緒に文化庁に有形文化財の申請をしました。

「月待ち茶屋」
 定休：月曜日
 11:30~14:00
 17:00~21:30
 058-337-2354 店主・藤田博典さん美智子さんご夫妻

まちなかお宝アート発見
 岐阜城下町「月待ち茶屋」の粋

まちなかお月見アートを開催

【ススキ飾りのまち並みと十三夜・お月見の花生け】

令和3年
10/16(土)
～23(土)



「お月見の花生け」妙照寺山門前のアート



「お月見の花生け」大仏殿東側、バス通りのアート

〔まちなかアート部会〕
今年も金華山にかかる十三夜のお月さまと、ススキを飾ったまち並みの美しさを楽しんでいただくため、第12回「まちなかお月見アート」を開催しました。
残念ながら、昨年に続き参加者を募つてのまち歩き行事はコロナ禍のため中止にしましたが、井の口の城下町を会員が調達したススキを玄関先に飾るこの事業は、皆さんの協力をいただいで、まちの風物詩として定着して参りました。
16日は、午前から会員、役員らが河原に出向きリヤカーや自家用車で刈り取つたススキを運び、午後から我が家（ふくろう絵工房）を中心に配布しました。
さらに、お月見の特別アートとして、川原町「華久」による「お月見の花生け」が夕刻前に、大仏殿の東側と妙照寺山門前にススキと共に展示されました。
花生けの作業中、通りかかったご夫妻が駆け寄り「古いまち並みに溶け込んだススキ飾りを見て、この花生けも関連しているのかと、素晴らしい行事ですね」と興奮気味に話されました。花生けアーツも4年目となり、散策の人ばかりでなく、通行するバスや車の窓越しからもたくさんの方の目を惹かせています。
10月18日は十三夜。あいにくの曇り空でしたが、これからもススキをまち並みに飾る「お月見アート」を継続していきたいと思ひます。
(伊藤逸夫)



家々の玄関先にススキが飾られた夕刻のまち並み

ウィズコロナですすめる・井の口まちづくり会・活動予定

「大仏様への年賀状」を今年も募集します

～手づくりで毎年作られる年賀状の中の1枚を大仏様宛に～

毎年、年賀状を出されるなら、慈悲溢れる岐阜大仏様へ旧年への感謝と、新しい年への抱負などを託して投函をしてみませんか？ 内容、手法を問わずPC製作もOKです。

●切手無しの投函：受付期間は12月13日(月)から令和4年1月7日(金)まで
投函場所：大仏殿正面、メディアコスモス2階中央図書館、アクティブG2階

●郵便年賀はがき：郵便局の年賀郵便受付開始日から1月7日まで(消印有効)

いただいた年賀状は、当会の年賀状展とアクティブGでの年賀状展の終了後に、正法寺様のご厚意で、岐阜大仏様の胎内に毎年奉納されています。(まちなかアート部会)

まちの歴史探索部会 講演会

井の口地区の防災の歴史と現状

令和3年 12/4 (土)

日時：12月4日(土) 2時～3時30分 会場：妙照寺 本堂(梶川町)

講師：渡邊 慎吾氏(岐阜市防災対策課 係長) 定員：60名 ※申込み不要・無料

長良川と共存するこの地区は、過去に伊勢湾台風はじめ多くの災害に遭遇し甚大な被害を経験しています。地球温暖化の影響で巨大化する台風や集中豪雨、土砂災害、さらには、南海トラフ大地震がいつ起きてもおかしくないといわれる状況です。そこで、事前の準備や情報によって被害が少しでも削減できるよう、今回の講演会を企画いたしました。過去の水害の映像を見たり、災害の種類によって避難場所や危険な場所が違うこと、ご自宅周囲の状況をハザードマップで確認いただけます。各家庭でできる食糧備蓄や予防策など、コロナ禍での避難途中や避難所での注意点を渡邊係長より説明いただきます。また、消防については金華消防団の活動状況や事例、傾向、初期消火の重要性などを松原和生市議会議員よりお話しいただきます。今回の講演会で日頃の準備や確認の必要性を多くの方にご理解いただければ幸いです。(まちの歴史探索部会長 岩佐 純一)

令和4年度、井の口まちづくり会は15周年を迎えます

まちの私の我が家の「宝物」を大募集!

～ご自慢のコレクションや制作作品、家に伝わる品物、建物など～

井の口まちづくり会は、平成20年3月に設立、4月から活動を始め、令和4年に15周年を迎えます。これもひとえに地域の皆さまのご協力とご支援あつてのことと感謝いたします。これまで5年ごとの節目の年に「井の口のお宝展」を開催しており、vol.3を次年度に実施するに当たり、地域の皆さまからのご意見や情報を大募集します。

- 一つ「まちのお宝」として、この地区の隠れた注目したいものや場所を推薦してください。
- 一つ「私の宝物」として、何かをコレクションされていたり、長く制作活動をされていたり、特技などを披露、発表していただける方、他薦自薦を問わず情報をお寄せください。
- 一つ「我が家のお宝」として、代々伝え残されているものや用途、真偽が分からないけれど古いもの、家業に使っていた道具類など、珍しい品物などがあればお知らせください。
- 一つ「建造物のお宝」として、昔ながらの匠の技や手法が用いられている、今では入手困難な材料で造られているなど、建物あるいは建築箇所を見せていただけませんか。
- 一つ「生業・家業・店舗」として、製造している品物とか、販売している商品、またはお店・会社の自慢やこだわりの事柄などを公開、見学させていただきませんか。

上記「宝物」の情報は、井の口まちづくり会役員〔小林孝夫、片岡学史、岩佐純一、堀智仙、伊藤逸夫、後藤勝利、馬場わかよ〕までお寄せください。

まちなかアート部会

大仏様への年賀状展

開催日：令和4年 1月14日(金)～16日(日)

●会場：につけん小規模多機能ホーム今町(今町3丁目) ※予定(変更有り)

大仏様がいただいた年賀状をすべて、会場に展示いたします。緊急事態宣言下であれば開催を中止します。〔※アクティブGでも「大仏様への年賀状展」を開催いたします。〕※年賀状を出された方が来場されますと、大仏殿拝観券(会期中有効)を進呈します。

学生まちなか寄席 井の口寄席

令和4年 2/20 (日)

昨年はリモート等で実施された市主催の全国学生落語選手権「策伝大賞」。この事業に連動して、岐阜大学落研の学生さん達と開催準備を進めています。

●会場：妙照寺 本堂(梶川町) ※詳細は開催チラシにて発表いたします。

事務局だより
●事務局長 片岡 学史
新型コロナウイルスの影響で、まちづくり会総会は2年連続で中止となったが、緊急事態宣言の隙間を縫って7月に「まちなか七夕コンサート」、10月には「まちなかお月見アート」を開催することができた。地域の皆さんの協力のおかげで、成功のうちに終わることができた。今年も残すところあと1か月あまり、去年に引き続きコロナ禍に振り回された1年だったが、一方で物事にじっくり取り組むことができたありがたい期間でもあった。
コロナ前の社会に戻ることは決してなく、ポストコロナ時代について識者がさまざまなシミュレーションを行っているが、「災い転じて福と為す」。そんな社会の実現を切に期待したい。
●広報通信部会長 馬場わかよ
七夕のコンサートは第5波の前に、お月見のススキ飾りは第5波収束のあとに開催することができ、その開催を役員一同心から喜んでいました。
まちづくり会の存続の意義は、人が集まり心を通わせる連帯感にあるんだと気づかされたコロナ禍でした。
次年度には、記念事業「井の口のお宝展」vol.3を開催する予定でいます。以前のような開催は難しく、ウィズコロナの形を模索しながら、まちづくり会でできる事業計画をこれから考えて参ります。
そのためには、地域住民、多くの皆さまのご協力が必要です。住む人達の顔が見えることが、安心・安全のまちづくりの第一歩ではないでしょうか。